

「挑戦と希望の地域支援・訪問看護ステーションと他機関との連携支援」 にボランティア参加して

県立看護大 MK

今回ボランティアとして参加し、自治会、訪問看護ステーションの看護師、ケアマネージャー、精神保健福祉士、市議会議員、病院看護師など、様々な職種の方が参加しているということがわかった。様々な職種の方々が互いに挨拶をしている様子があり、このような会を通して、他職種と関わることができ、対象者にとってよりよい支援を提供するための他職種連携にもつながるのだと感じた。

研修会に参加し、緊急時にどこに繋ぐべきかどのようなルールがあるのか、ということをもっと確認、準備、話し合いをしておくことで、円滑な他職種連携に繋がり、対象者へのより良い支援になるということがわかった。

また、地域での生活を支えるための他職種連携として、他職種を知ろうとするだけでなく、自分自身についても知ってもらおうと関わる必要があるのだと考えた。

看護師と他職種というように職種に捉われすぎず、職種の特徴を活かしながら人としての関わりを大切にすることで、信頼関係の構築につながるのだと思った。職種や年代に捉われ過ぎず、今後はもっと積極的に他者と関わり、自分の考えや思いを発展させたり、他者との繋がりを楽しみたいと感じた。

病棟看護師を目指す立場として、入院している患者様に対する看護だけでなく、地域のサービスや資源についても十分に理解しておく必要があると感じた。地域の支援体制について理解することで、患者様とその家族への情報提供や退院後の支援に繋げることにつながると考える。地域と十分に連携し、対象者とその家族が継続した支援を受けることができるよう努めたいと考える。

研修会を通して、訪問看護ステーションごとの特徴についても知り、それぞれ掲げていることや、対象者など特徴があるということがわかった。退院に向けて訪問看護ステーションなどの利用を考えている患者様とその家族についても、わかりやすい説明ができるよう、地域の支援体制について関心を持ちながら理解を深めていきたいと考えた。

精神疾患について、地域住民の偏見や誤った知識により、精神疾患を有する方

の人権が尊重されない場面は現在も多くあると考える。そのような社会の中で、看護者として精神疾患を有する方とその家族が安心して自分らしい暮らしができるような支援について、様々な職種と積極的に連携し、よりよい支援について深めていきたいと考える。